

日本赤十字社有功章等伝達式 小川涼子

10月9日に国際交流センターであった日本赤十字社有功章等伝達式報告会があった。

この表章は2023年5月5日に開催したトルコ・シリア大地震復興支援チャリティーコンサートの寄付金を日本赤十字社に寄せたことで、銀色有功章をもらったもので、日本赤十字社からの伝達式にはコンサートの主催者、華僑華人総会の劉会長が行ってきてくれました。

記念の楯にはまだ保護シートが貼られていて、記念写真撮影で手に持った際に、剥がしたい衝動にかられました。



みかん狩り 小川涼子

11月10日鹿久居島の南農園にミカン狩りに行ってきた。参加者は7人だった。

雨が降るかも……という心配もあったけども、ミカン狩りしてるさいちゅうは好天で、山の上のほうまで登っていたらがっつり汗をかくくらいの陽気だった。

今回のミカン狩りは狩人の性格が出ていたように感じた。

私は山をどんどん登って行きたいから、一本の木からは一個のミカンしかとらない。たとえ試食して美味しくても、一個だけだ。どれが美味しそうとかって、じっくり選びもしない。木をパッと見て、これ、と思ったのを袋に入れるのだ。

田中さんはじっくり選んでいたようだ。手の届かないとこのが欲しいことがあると言っていた。私は自分が欲しいと思ったみかに手が届かないことはなかったが、それは私の身長が高いからではなく、そんなところのミカンを私は見ていないのだろうな、と思う。

坂本さんはしっかり選んで、きれいに袋に詰めた。狩り終わったあとに、一番美味しそうになっていた。あのくらいきれいに詰めてたら、私の袋もう5個くらいは入ったのではないかと思う。

帰りには頭島の渚の交番で昼ご飯を食べて、頭島をぐるっと一周した。すごい狭い道で対向車が来たらどこですれ違うか、とドキドキするような道だった。

1034
2024/11/15

中国百科検定学習会第3回 真田紀子

12月7日に試験が行われる中国百科検定について、11月17日の日曜日の14時から岡輝公民館で学習会を行います。地理分野についての学習会です。

中国には4つの直轄市と5つの自治区と22の省があります。

また中国には59の世界遺産があり、この問題もよく試験で問われます。

どの世界遺産がどこにあるのか覚えるのは大変です。でも問題集を押さえておけば、8割の問題は大丈夫です。残りは過去問をあたりましょう。

2023年の1級の問題です。

○中国に4つある直轄市は小さな省並みの人口がある。3つは常住人口が2000万人以上、1つは1000万人台である。1000万人台の直轄市はどれか。

①北京市 ②天津市 ③上海市 ④重慶市 答えは天津市です。

北京は2100万人、上海市2400万人、重慶市2000万人、天津市1300万人です。



日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhongyouthao.iinaa.net>
メールアドレス
rizhongyouthaoiehuokayama@yahoo.co.jp



半田滋氏の著書「台湾侵攻に巻き込まれる日本」から与那国島の現状を報告します

大飼繁

与那国島は日本最西端にある。外周は約28キロメートルしかなく、車なら30分ほどで一週できる。台湾との距離は111キロメートルに近い。防衛省は23年度防衛費に与那国駐屯地に隣接する18ヘクタールの用地買収費を計上した。用地取得後には地対空ミサイルとその運用部隊が配備される。

与那国島の「島おこし」のため自衛隊誘致を進めたのは、外間守吉前町長である。彼は08年に町と町議会に自衛隊誘致を求める514人の署名簿を提出、町議会は賛成多数で自衛隊誘致決議案を可決した。本土復帰後、沖縄本島には陸海空自衛隊が配備されたが、先島諸島には宮古島のレーダー基地以外に自衛隊基地はなかった。与那国島は面積が狭いうえ、山が多く、実戦部隊は置きにくい。中国や台湾に近い地理的特性から、航空機や艦艇を監視するレーダーの設置が最適だった。沿岸監視隊は陸上自衛隊に属する。外間氏は「陸上自衛隊の誘致」を防衛相に伝え、この「地元からの要望」が配備を進める号砲となった。ところが、そこにもつてきて地対空ミサイルの配備である。外間氏は「誤算だった」と周囲にぼやいているという。

だが自衛隊誘致は住民の総意ではなかった。自衛隊配備の是非をめぐる住民投票は15年に行われ、賛成632、反対445と賛否が分かれば、島は二分された。

陸上自衛隊与那国駐屯地は16年3月に隊員約160人と家族が移り住み、開設前の島人口1490人が1年後には1726人に増えた。22年には航空自衛隊の移動警戒管制レ

ーの運用部隊も与那国駐屯地に常駐を始め、

隊員数は約170人に増加。23年度予算で敵の妨害電波を無力化する電子戦部隊の配備が決まり、隊員数は約210人に増えることになった。これで島人口は2110人となり、これに赴任する隊員の家族を含めるとさらに増える。2000人台を回復するのは1980年代以来だが、手放しで喜べる話ではない。

若い隊員とその家族が増えたことにより、島に変化が生まれた。駐屯地では島に溶け込むよう推奨しているので隊員らは地域の行事には積極的に参加する。島の体育大会で上位入賞するのは体力に優れた隊員ばかり。住民の親睦を深めるための行事は、競争に代わった。隊員は定期異動により、2年程度で島を離れるので地域社会の風習や伝統文化が継承されることもない。同じ家系や昔からの知り合いで構成された島のコミュニティが崩れ始めたのだ。15年の住民投票で生まれた「しこり」は解消しておらず、島の空気を微妙なものにしている。新たな対立を避けようと自衛隊について無関心を装う住民が増え、結果的に政府のやりたい放題がまかり通る事態となっている。

2023年5月、自衛隊ミサイル部隊の配備計画をめぐる初の住民説明会が開かれた。政府は「敵基地攻撃能力の保有」を閣議決定しており、住民から「長距離ミサイルが配備されれば攻撃対象になる」と不安を訴える声が出た。防衛省側は「配備が予定されている03式地対空ミサイルは防衛用の兵器なので敵基地攻撃には転用できない」回答した。しかし、沿岸監視隊の任務は中国軍艦艇や航空機の

レーダーも常駐し、次には電子戦部隊が置かれる「情報収集の最前線」である。有事になれば、真つ先に攻撃されるのが情報収集施設であるから、与那国島は真つ先に狙われることになる。

大阪から移住して2年半という植埜貴子さんは「国がおおるので、きな臭い雰囲気は漂い始めている。私たちは右往左往するばかり。元からの住民は分断を恐れて声を上げてくれない。」という。41年前に移住した山口京子さんは「さつさと島から出て行けということでしょう。町が住民を島から避難させるための基金を作るなんて普通じゃない。」と話す。

本土から04年に移住し、久部良でカフェを営む猪股哲さんは「全島避難なんて正気の沙汰ではない。介護を受けている人やペルパーと一緒に避難できるのか。避難先の生活はどうなるのか。そんな事態になる前になぜ、政府は全力で外交をやろうとしないのか。」と憤る。「住民投票から8年も経過した。もういい加減融和しようとしなないのか。島は自衛隊によつて潤う人と排除される人に二分されたままだ。たまらず島を出ていく人もいる。自衛隊は島の分断を狙っているのだから、住民が声を上げなければ何も変わらない。」前述の猪股さんの言葉である。

「南西諸島にシェルター設置」とか、「政府主催、離島からの避難訓練」などというが、先島諸島の人口は約11万人。実際戦争が始まってみれば、シェルターは本当に役に立つのか、住民避難は安全にできるのか、疑問

お知らせ 日中友好協会倉敷支部映画会
「大地の子」第5部「長城」第7部「兄妹」
日時：11月23日（土）14：00～
場所：ライフパーク倉敷中ホール

次回の新聞放送作業は
11月26日（火）午前10時半
から民主会館で行います。
前回お手伝いくださった方で
す。

大飼繁
河井田真